

平成29年 滋賀県の労働災害発生状況



平成30年4月
滋賀労働局

労働災害件数は5年連続減少

～ 死亡災害は大幅減少、労働災害件数は微減 ～

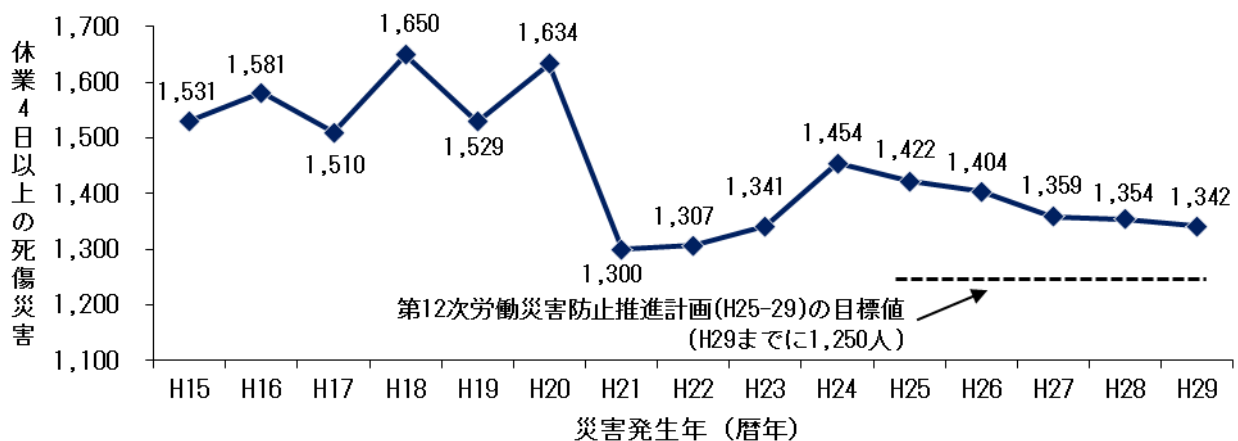
1 概況

① 休業4日以上之死傷災害発生状況

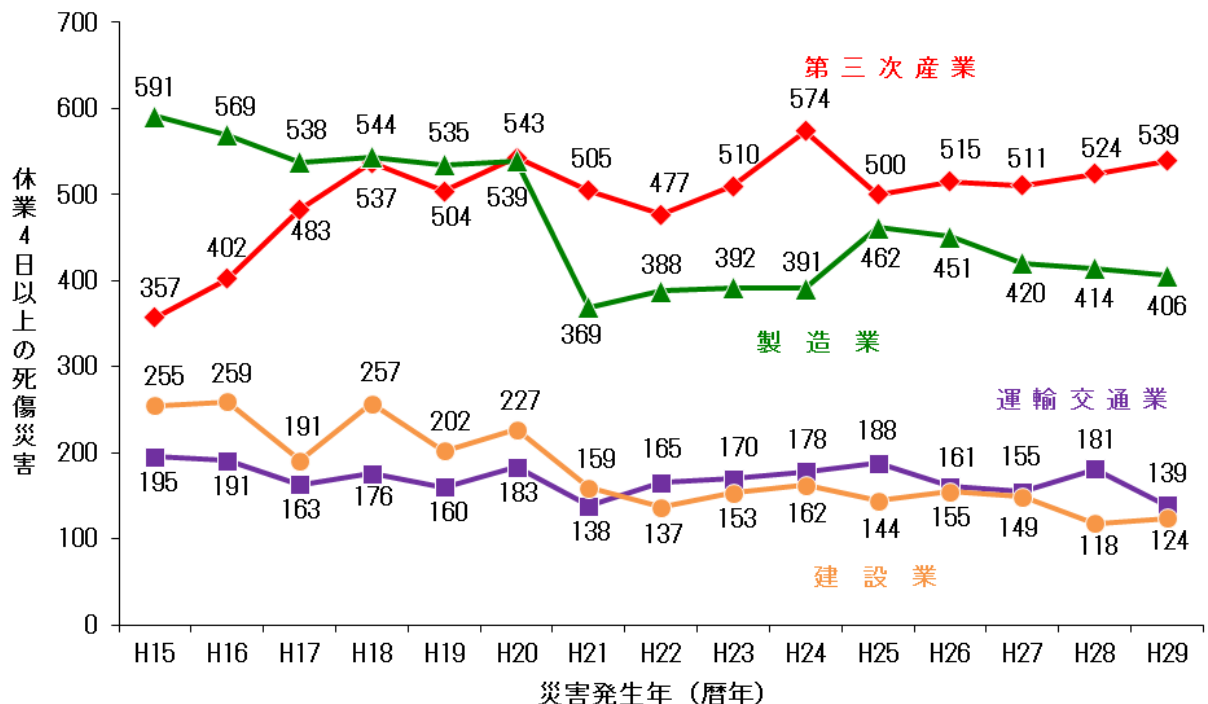
滋賀県内の労働災害による休業4日以上之死傷者数は、第1図に示すように、平成24年を起点として4年連続で減少し、平成29年の休業4日以上之死傷者数は、全産業で1,342人となり、前年に比べ12人(-0.9%)の減少となった。なお、5年連続の減少は23年ぶり。

業種ごとの内訳では、第2図に示すように、運輸交通業が139人(前年比-23.2%)と大幅に減少し、製造業も406人(前年比-1.9%)と減少したが、建設業が124人(前年比+5.1%)、第三次産業が539人(+2.9%)と増加した。

<第1図> 休業4日以上之死傷者数の推移(全産業、過去15年間)



<第2図> 休業4日以上之死傷者数の推移(業種別、過去15年間)

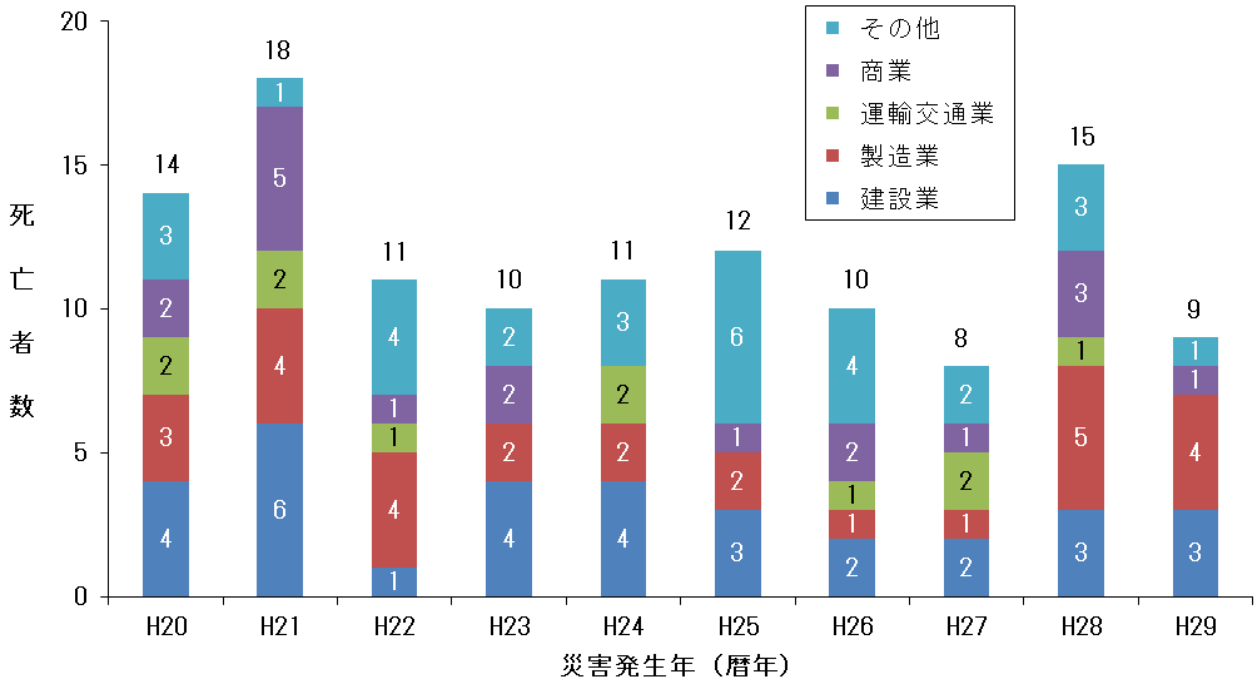


② 死亡災害発生状況

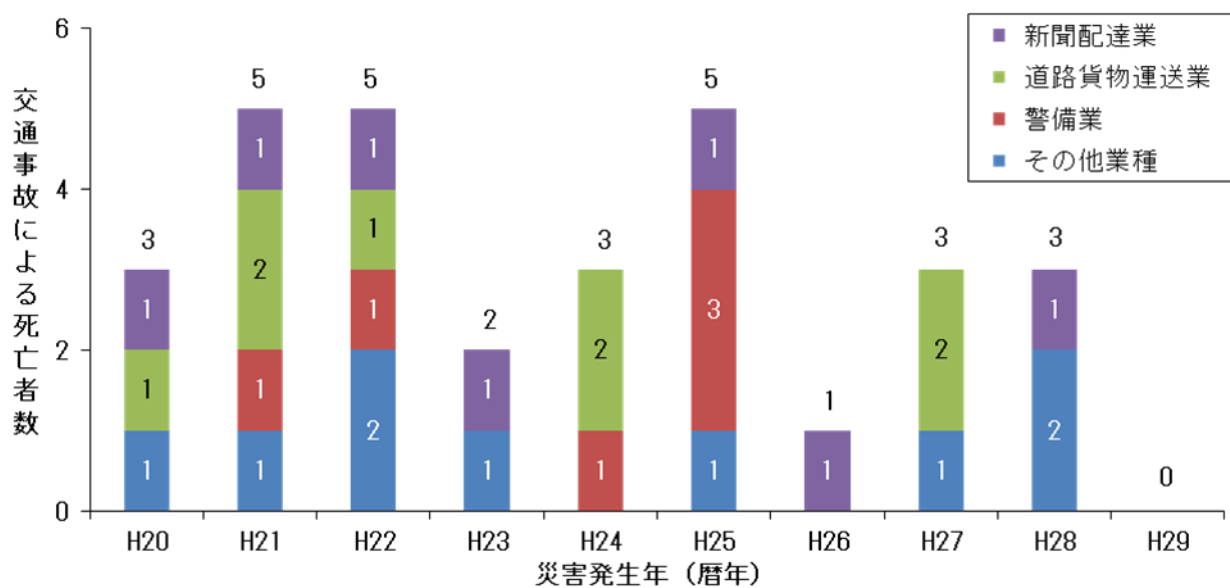
死亡災害は第3図に示すように、平成29年は9人と、大幅に増加した平成28年から大きく減少し、2年ぶりに10人以下となった。

交通事故による死亡者数は、第4図に示すように0人となった。

<第3図> 死亡者数の推移（過去10年間）



<第4図> 交通事故による死亡者数の推移（過去10年間）

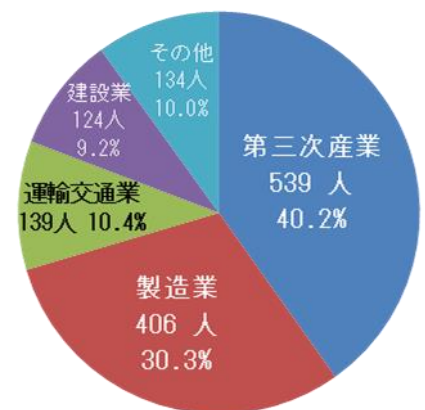


2 業種別の発生状況（平成29年）

① 休業4日以上の死傷者数は、第5図に示すように、第三次産業の占める割合が40.2%と最も高く、次いで、製造業（30.3%）、運輸交通業（10.4%）、建設業（9.2%）が多くを占める。

第三次産業の内訳は、539人中、商業（199人）、接客娯楽業（110人）、社会福祉施設（75人）、清掃業（53人）等である。

② 死亡者数は、第3図に示すように、製造業が4人と最も多く、最近2年間はやや高い水準で推移している。建設業でも3人と多く、商業が1人、運輸交通業が0人と減少した他、その他の業種が1人（畜産業1人）となった。

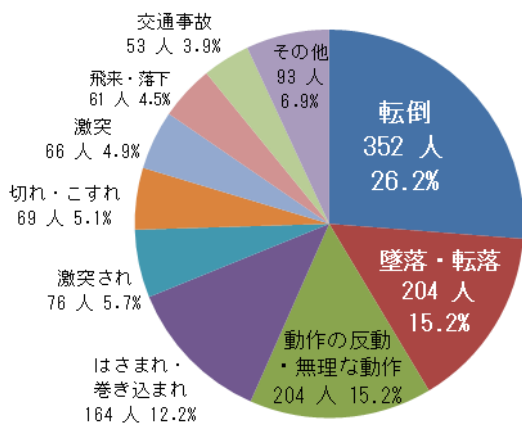


<第5図> 業種別死傷災害全産業 1,342人

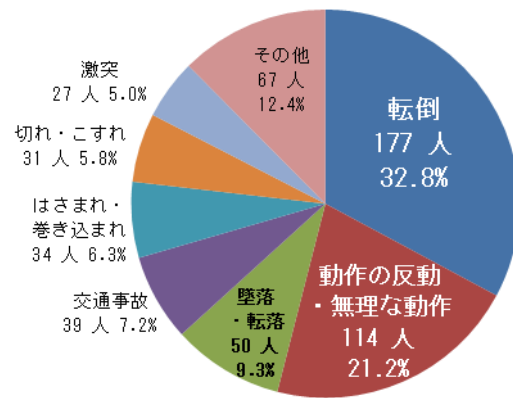
3 事故の型別の発生状況（平成 29 年）

- ① 全産業の死傷者数を事故の型別で見ると、第 6 図に示すように「転倒」が 26.2%と最も多く、次いで「墜落・転落」が 15.2%、「動作の反動・無理な動作」が 15.2%、の順で発生している。
- ② 事故の型別の死傷者数を業種別にみると、第三次産業では「転倒」が 32.8%と最も多く、次いで「動作の反動・無理な動作」が 21.2%、「墜落・転落」が 9.3%の順で発生している。
 製造業では「転倒」が 24.9%と最も多く、次いで、「はさまれ・巻き込まれ」が 23.9%、「動作の反動・無理な動作」が 10.6%の順で発生している。
 運輸交通業では「転倒」が 25.9%と最も多く、次いで、「墜落・転落」が 23.7%、「動作の反動・無理な動作」が 19.4%の順に発生しており、「交通事故」の割合は 7.2%にとどまっている。
 建設業では「墜落・転落」が 33.9%と最も多く、次いで「転倒」が 12.9%、「飛来・落下」が 11.3%の順で発生している。

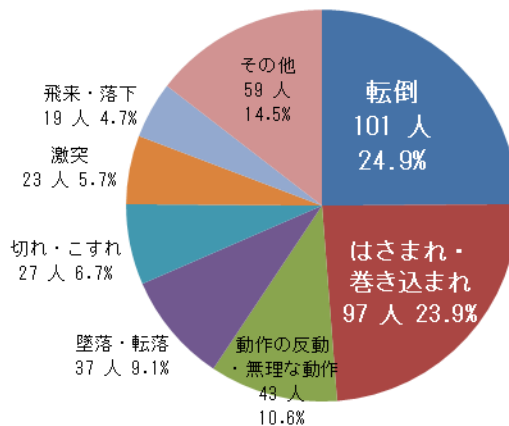
<第 6 図> 事故の型別死傷災害



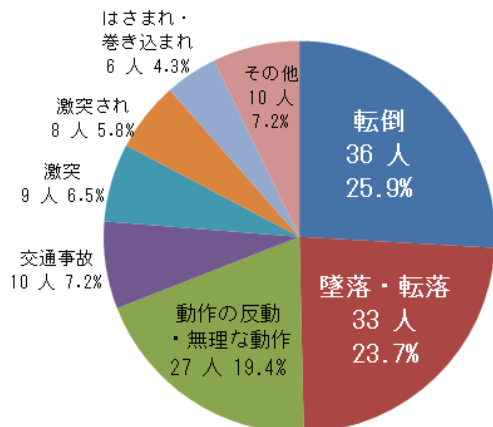
全産業 1,342 人



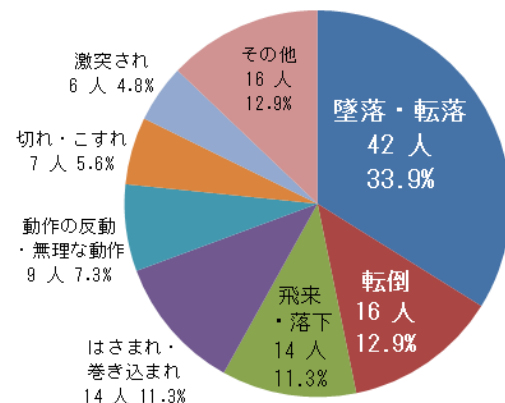
第三次産業 539 人



製造業 406 人



運輸交通業 139 人

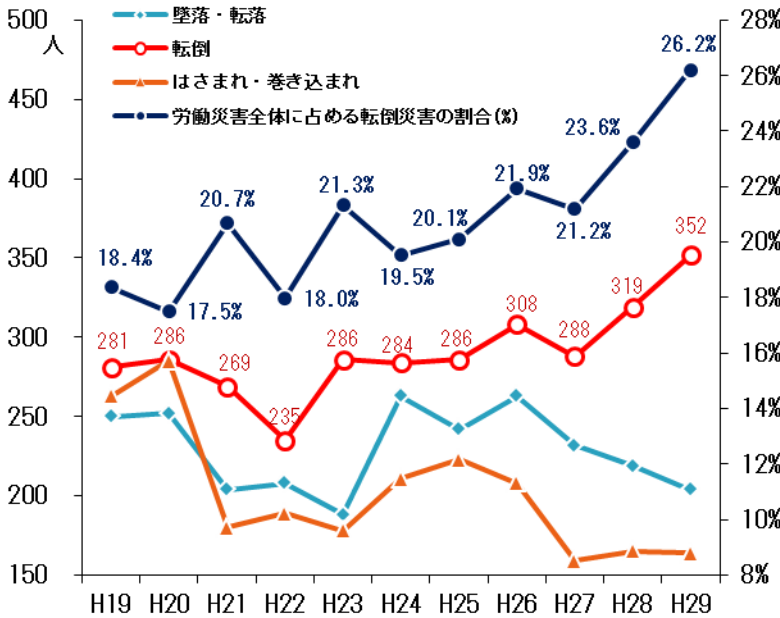


建設業 124 人

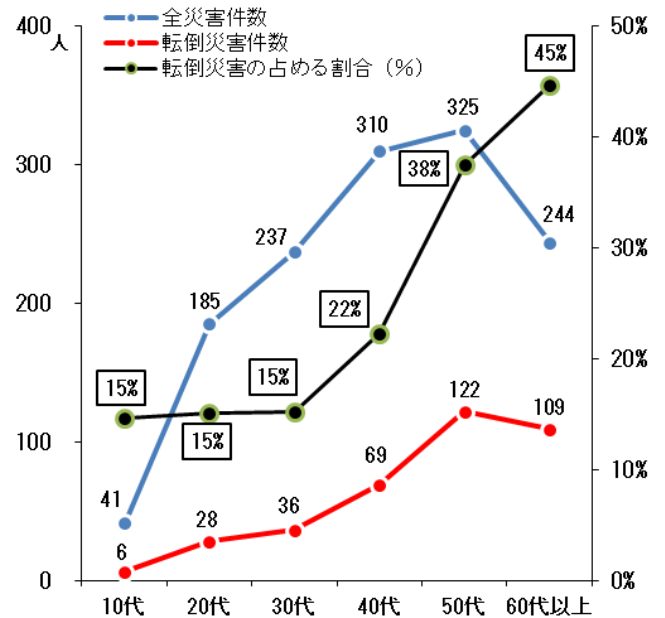
- ③ 死亡災害の事故の型別では、全数9人の内、「墜落・転落」が3人、「はさまれ・巻き込まれ」が2人、「激突され」、「崩壊・倒壊」「感電」「火傷」が1人ずつ発生している。
- ④ 転倒災害件数は、第7図に示すように352件となり、労働災害全体が減る中でも、就業者の高年齢化に伴い、依然として高止まりの状態となっている。労働災害全体に占める転倒災害の割合は、一貫して増加傾向であり、平成29年は26.2%であった。

平成29年における転倒災害352件の年代別件数は、第8図に示すように、50代が122人と最も多く、次いで60代以上が109人、40代が69人となった。また、各年代の転倒災害の割合は、年齢を重ねるほど高くなる傾向にある。

<第7図> 転倒災害の件数と全体に占める割合



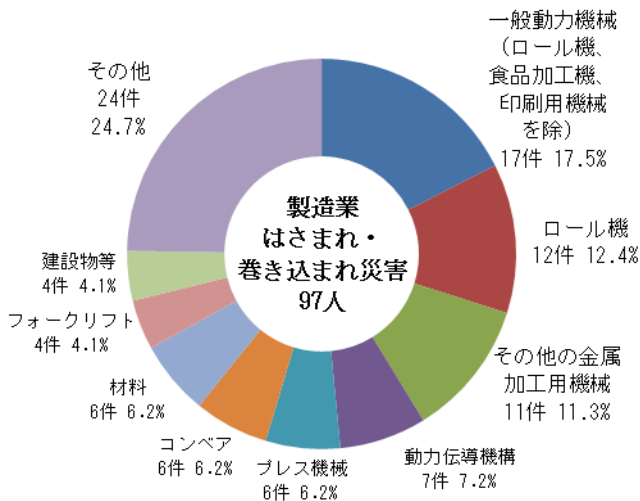
<第8図> 年代別災害件数と転倒災害の割合



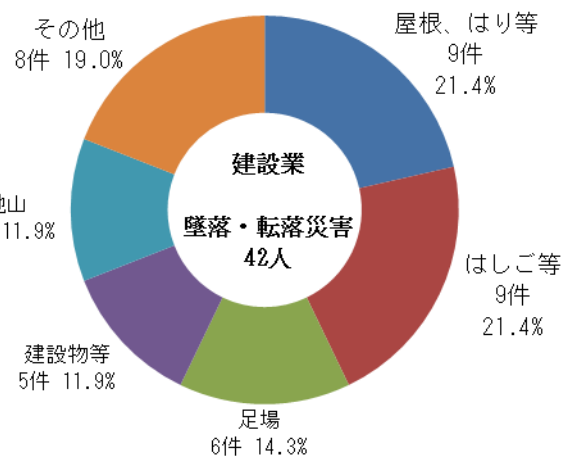
4 起因物別の発生状況（平成29年）

- ① 製造業での災害のうち、発生件数が多く、重傷になりやすい「はさまれ・巻き込まれ」災害97件を起因物別でみると、第9図に示すように「一般動力機械」が最も多く17.5%を占めている。
- ② 建設業で最も死傷者数の多い「墜落・転落」42人を起因物別でみると、第10図に示すように「屋根、はり等」とともに「はしご等」が多く、「足場」「建設物等」を上回っている。

<第9図> 製造業における、「はさまれ・巻き込まれ」災害の起因物別内訳



<第10図> 建設業における「墜落・転落災害」の起因物別内訳



* 休業4日以上の死傷災害は「労働者死傷病報告」、死亡災害は「死亡災害報告」による。